

西新宿おじいちゃんとおばあちゃんの花しょうぶ園

代表（自治会長） 三枝 正雄

当園は兵庫県佐用町の西南部で岡山県と接する山間地にある。平成元年に池坂夫妻が西新宿奥ヶ市地区にUターンして花しょうぶを植えたのが始まりである。平成8年に西新宿自治会が奥ヶ市地区の荒廃田を再整備、平成11年には1.2haの園内整備工事が完了し一般公開する。平成15年には170種50万本規模となる。

平成20年をピークに衰退傾向が始まり、平成25年には高齢化による閉園を決定、しかし「体力的に無理だが気持ちがつらい」に心うたれた筆者が「みなさんは無理をしないでください。私には無理をさせてください」と代表を引き受けた。それから「再生・継続・進化」を掲げて6年、栽培放棄された株の再生、老朽化した施設の再建、未所有品種の移

入、給排水設備の改良、雨天対応の休憩所や遊歩道、周辺の里山整備と活用との一体化などを進めてきた。「来る度に広く明るくなりますね」「去年より大きくきれいに咲きましたね」来園者の一言を唯一の楽しみに、おじいちゃんとおばあちゃんは、また1年かけて花しょうぶを育てる気になる。

かつて100戸500人の人口が今10戸16人となり、動ける人は最大で8人、80歳代半ばの一人暮らしのおばあちゃんが主力である。「私らこの歳でこんなに元気なのは花しょうぶのお陰や」杖をついて草取りに入り、帰りは花しょうぶ畑に杖を忘れて帰る。6月の3週間に来園する6千人を超えるお客さんも花しょうぶから元気をもたらしていると思われる。団体・個人のボランティア、特に社会福祉法人はなさきむら作業所は力強い支えになっている。山間地の飲食店の閉店が続く中、プロのボランティアで花しょうぶ園に「日曜カフェ花」を開業して1年、年間を通して交流人口が増え山の上が賑わっている。



西新宿のおじいちゃんとおばあちゃん達
—「日曜カフェ花」のスタッフと共に—